

卒業研究 (会計アドバンス)		演習	教授 安藤 鋭也
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目	科目ナンバリング	21300401

1. テーマ

会計に関する諸問題を研究します。

2. ゼミのねらい・概要

3 年次の会計専門ゼミで習得した知識を活かして、それぞれの問題意識に基づく研究テーマに、主体的かつ積極的に取り組むことを期待します。

卒業論文の作成において、ある論点に関して複数の立場を採り得る場合、どの立場をとっても構いません。ただご自身の立場（見解）を論理的に説明できることが望まれます。

卒業論文の作成を通して、社会に出た後も役立つ実践的な能力（会計リテラシー）を身につけてもらえるよう指導します。関心のある方には、関連資格（例えば公認会計士、公認不正検査士、公認内部監査人）の指導も行います。

3. ゼミ計画

概ね以下の通りです。皆さんの希望を出来るだけ取り入れます(ゼミの主役は皆さんです)。相談しながら進めましょう。

〈前期〉	〈後期〉
1. ガイダンス(履修指導)	1. ガイダンス(卒論完成に向けた学修計画作成)
2. 卒業論文指導①(実際の卒業論文の紹介や解説)	2. 卒業論文の中間発表①(学生 3～4 名)
3. 卒業論文指導②(テーマの選び方)	3. 卒業論文の中間発表②(学生 3～4 名)
4. 卒業論文指導③(構成の組み方)	4. 卒業論文の中間発表③(学生 3～4 名)
5. 卒業論文指導④(参考文献の選び方)	5. 卒業論文の中間発表④(学生 3～4 名)
6. 卒業論文指導⑤(図表などの表記の仕方)	6. 卒業論文の中間発表⑤(学生 3～4 名)
7. 卒業論文指導⑥(結論の導き方)	7. 卒業論文の中間発表⑥(学生 3～4 名)
8. 卒論テーマの口頭発表①(学生 3～4 名)	8. プレゼンテーションの指導
9. 卒論テーマの口頭発表②(学生 3～4 名)	9. 卒業論文の最終発表①(学生 3～4 名)
10. 卒論テーマの口頭発表③(学生 3～4 名)	10. 卒業論文の最終発表②(学生 3～4 名)
11. 卒論テーマの口頭発表④(学生 3～4 名)	11. 卒業論文の最終発表③(学生 3～4 名)
12. 卒論テーマの口頭発表⑤(学生 3～4 名)	12. 卒業論文の最終発表④(学生 3～4 名)
13. 卒論テーマの口頭発表⑥(学生 3～4 名)	13. 卒業論文の最終発表⑤(学生 3～4 名)
14. 卒論テーマの口頭発表⑦(学生 3～4 名)	14. 卒業論文の最終発表⑥(学生 3～4 名)
15. まとめ(後期に向けた学修計画作成)	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

皆さんの研究テーマに関する知識習得と分析・考察を計画的に行うことが求められます（最低限、週に 2 時間程度）。ゼミにおける口頭発表・中間発表・最終発表に向けた準備も欠かせません（リハーサルを含めて、週に 3 時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

研究の進捗（口頭発表・中間発表・最終発表）に応じて、個別に補足すべき点を指導します。卒業論文提出後も、残された課題や今後の方向性に関するコメントを通して、一人一人が社会に出た後も活躍できるよう助言します。コメントの通知方法は事前にお知らせします。

6. ゼミにおける学修の到達目標

卒業論文をまとめることが目標です。その過程を通じて、様々な気づきを得ることも狙いです。

7. 成績評価の方法・基準

卒業論文の内容（60％）・ゼミへの取り組み姿勢（40％）で成績評価を行います。

8. テキスト・参考文献

各自の研究テーマに沿うと思われる文献などを個別にご紹介します。

テキスト・参考文献には指定しませんが、黒木登志夫（2011）『知的文章とプレゼンテーションー日本語の場合，英語の場合ー』中央公論新社の一読をお勧めします。

9. 受講上の留意事項

卒業論文のテーマは，どこか（または何らかの形）で会計と接点があれば結構です。皆さんが最も関心をお持ちのテーマを選んで，思う存分腕をふるって下さい。主体的・積極的な参加を心から歓迎します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本ゼミは，商社（経理部門）における実務経験も活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。